

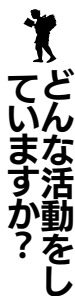


尊徳の偉業や教えを学び、未来へ伝える

「二宮金次郎すごろく」を持つメンバーの皆さん(写真左から猪瀬さん、伊澤さん、大森さん、濟藤さん、沼尾さん、宮内さん)

日光尊徳きらり

代表 濟藤 勝義 さん



どんな活動をしていますか？

30〜70代のメンバー8名が、月1回の頻度で勉強会を行っています。

広報活動の試みと

平成28年度に市主催の「日光学・わがまちきらり発見隊」の活動の中で、二宮尊徳について学び、尊徳の「生涯」「教え」「残したものの」の歴史的観点から3つの「金次郎すごろく」を作成しました。このすごろくを使って、尊徳の偉業を多くの人々に伝えるため、方策などの研究活動を行い、今年度も継続活動をする中で7月に「日光尊徳きらり」が発足しました。

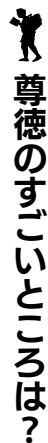
発足したきっかけは？

宮尊徳は江戸時代末期の農村指導者・財政再建者であり、600を超える村を救済し、復興させました。また、偉大な思想家でもあります。今月は、尊徳を尊敬し、尊徳の教えを広く伝えようと活動する「日光尊徳きらり」を紹介します。



今後の抱負は？

「薪を背負いながら本を読む二宮金次郎少年」の像はみんな知っています。大人になった尊徳のことはあまり知られていないのが現状です。尊徳は、人々のために物質的にも精神的にも豊かに暮らしている社会を願い、その現実のために生涯を捧げました。身近にこのような偉人がいることをもっと知ってもらおう、興味を持ってもらうきっかけ作りのため、16歳のとき、夜遅く行灯の明かりで読書をしていると「百姓には学問はいらない。油がもったいない」と伯父に叱られ、その際、金次郎少年は、「それなら自分で油を作ろう」と、一握りの菜種をもらい、近くの土手に植え、7升の油菜を作り、油に換えたそうです(積小為大)。他にも尊徳の語り継がれるすばらしい話は、数え切れないほどあります。



尊徳のすごろくは？

「薪を背負いながら本を読む二宮金次郎少年」の像はみんな知っています。大人になった尊徳のことはあまり知られていないのが現状です。尊徳は、人々のために物質的にも精神的にも豊かに暮らしている社会を願い、その現実のために生涯を捧げました。身近にこのような偉人がいることをもっと知ってもらおう、興味を持ってもらうきっかけ作りのため、16歳のとき、夜遅く行灯の明かりで読書をしていると「百姓には学問はいらない。油がもったいない」と伯父に叱られ、その際、金次郎少年は、「それなら自分で油を作ろう」と、一握りの菜種をもらい、近くの土手に植え、7升の油菜を作り、油に換えたそうです(積小為大)。他にも尊徳の語り継がれるすばらしい話は、数え切れないほどあります。

インタビューを終えて…

私たちはその機会を設けたいと考えています。



イオン今市店で「二宮金次郎すごろく」を親子に説明するメンバー。カラフルなすごろくが興味を引く。

尊徳の教えで「芋こじ」があります。芋を洗う時、芋と芋をぶつけ合いながら磨き上げていく。お互いに切磋琢磨することです。今回、取材のため「日光尊徳きらり」の勉強会にお邪魔した際、メンバーの活発な意見交換を見た時に、その言葉を思い出しました。また、メンバーの尊徳に対する熱意ある話を伺い、改めて尊徳の本を読んでみたくなりました。尊徳に興味があり、入会を希望する方は、生涯学習課(☎21)5182へお問い合わせください。

※日光尊徳きらりは、11月11日(土)の「全国報徳サミット日光市大会」で学習発表を行います。詳しくは、「情報なび」31ページをご覧ください。